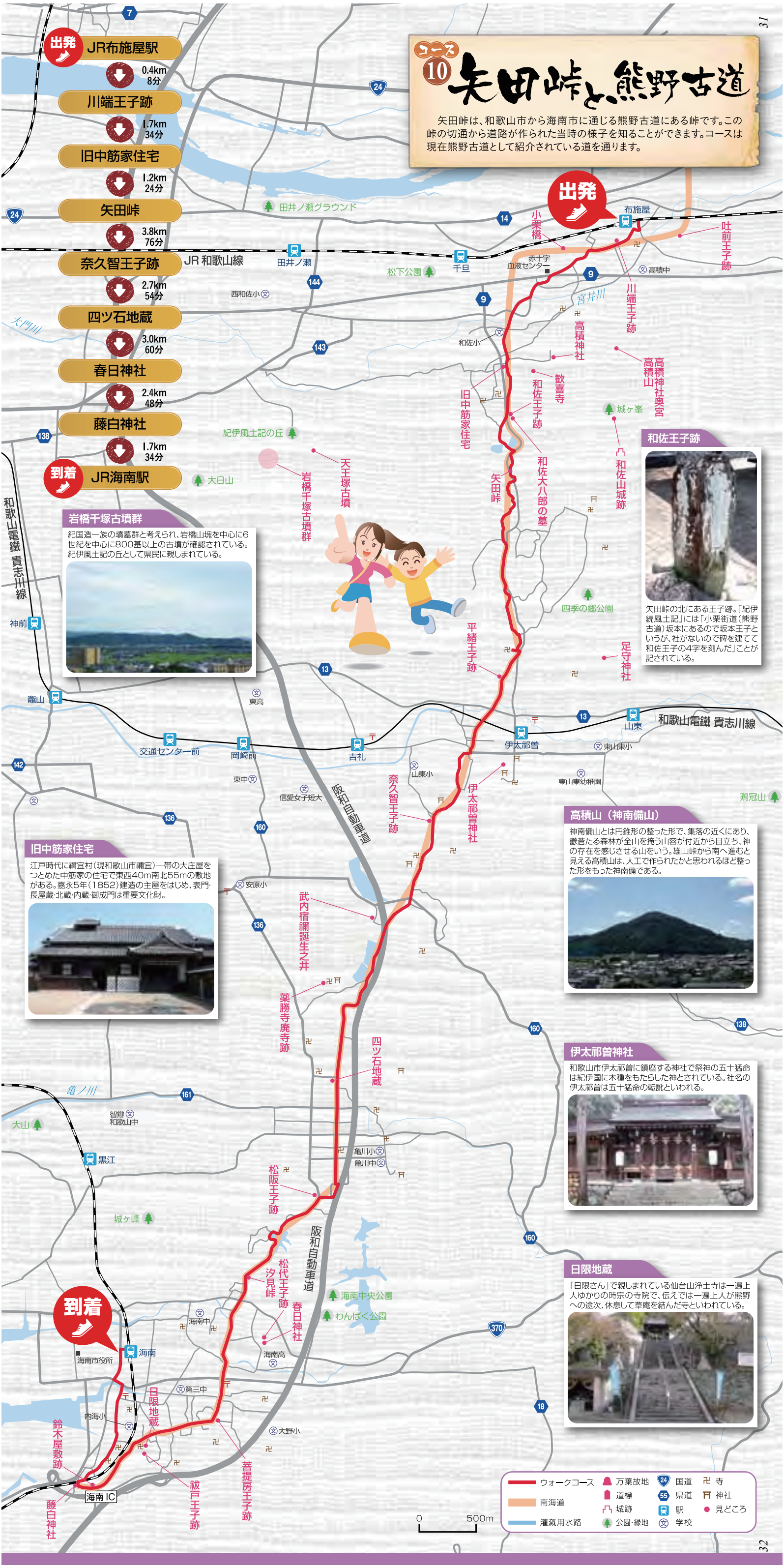
コース10 矢田峠と熊野古道

矢田峠は、和歌山市から海南市に通じる熊野古道にある峠です。この峠の切通から道路が作られた当時の様子を知ることができます。コースは現在熊野古道として紹介されている道を通ります。

出発 JR布施屋駅
↓ 0.4km 8分
川端王子跡
↓ 1.7km 34分
旧中筋家住宅
↓ 1.2km 24分
矢田峠
↓ 3.8km 76分
奈久智王子跡
↓ 2.7km 54分
四ツ石地蔵
↓ 3.0km 60分
春日神社
↓ 2.4km 48分
藤白神社
↓ 1.7km 34分
到着 JR海南駅



和佐王子跡

矢田峠の北にある王子跡。『紀伊続風土記』には「小栗街道（熊野古道）坂本にあるので坂本王子というが、社がないので碑を建てて和佐王子の4字を刻んだ」ことが記されている。

岩橋千塚古墳群

紀国造一族の墳墓群と考えられ、岩橋山塊を中心に6世紀を中心に800基以上の古墳が確認されている。紀伊風土記の丘として県民に親しまれている。

旧中筋家住宅

江戸時代に禰宜村（現和歌山市禰宜）一帯の大庄屋をつとめた中筋家の住宅で東西40m南北55mの敷地がある。嘉永5年（1852）建造の主屋をはじめ、表門・長屋蔵・北蔵・内蔵・御成門は重要文化財。

高積山（神南備山）

神南備山とは円錐形の整った形で、集落の近くにあり、鬱蒼たる森林が全山を掩う山容が付近から目立ち、神の存在を感じさせる山をいう。雄山峠から南へ進むと見える高積山は、人工で作られたかと思われるほど整った形をもった神南備である。

伊太祁曽神社

和歌山市伊太祁曽に鎮座する神社で祭神の五十猛命は紀伊国に木種をもたらした神とされている。社名の伊太祁曽は五十猛命の転訛といわれる。

日限地蔵

「日限さん」で親しまれている仙台山浄土寺は一遍上人ゆかりの時宗の寺院で、伝えでは一遍上人が熊野への途次、休息して草庵を結んだ寺といわれている。

コース10 矢田峠と熊野古道

南海道と熊野古道

平安時代の南海道は和泉国から雄ノ山峠を越えて紀伊国に入りました。雄ノ山峠を通る道は延暦23年(804)に桓武天皇が紀伊国へ行幸した帰り道に「雄山道」を通ったことが記されています。

南海道の駅家について、弘仁2年(811)に萩原(かつらぎ町)・名草(和歌山市山口)・賀太(和歌山市加太)駅を廃止した記録があります。平城京に都があった奈良時代は真土山を越えて、紀の川の北岸を三つの駅家を利用して使いが往来していたのでしょう。難波京・長岡京に都があった時代は紀見峠を越えて奈良時代の南海道を利用していたのでしょう。翌年の記録には紀伊国名草駅を廃止して更に萩原駅を置いたと記されています。前の年に廃止されたはずの名草駅の廃止を記録し、代わって萩原駅を置き換えたということだと思います。

新しく設置された萩原駅は岩出市に置かれました。承和12年(845)の文書を見ると、そこに山前(やまさき)郷萩原村の名前があり、その田地を売り渡した記録が見えます。萩原村は現在の岩出市山付近と考えられています。また、その記録を見ると、南北に駅路(南海道)・東西に駅路の通っていることがわかります。

すなわち、雄ノ山峠から南に来た南海道が岩出市で西に向かっていることがわかります。桓武天皇の行幸は行きも雄山道を通っていたことが推測されますので、この頃に駅路として準備されていたのではないかと推測されています。

この雄ノ山峠を越える道路はのちに高野山参詣の時に藤原道長や頼道が通り、その後は熊野詣の道として利用されるようになり、今は熊野古道の名前で使われています。

紀の川を渡った後の熊野古道は、かつては南海道として利用されていた可能性があります。平城京で出土した木簡によれば、天平4年(732)に安諦郡(現在の有田郡)に駅戸のあったことが記されています。一般的に駅戸は駅家の近辺に置かれています。すると有田郡の駅戸から有田郡内を南海道が通過したと想像することができます。その南海道のコースは現在の熊野古道が踏襲している可能性をもっています。

矢田峠

紀の川南岸の熊野古道を歩いていくと和佐王子跡を過ぎて、矢田峠を越えます。峠の頂上部では山を切通して道路が続いています。南海道が設計建設された頃、全国的に平野部では直線指向の道路が敷設され、丘陵部では切通で通じるように作られていました。矢田峠はその頃の切通を踏襲していると思われます。

矢田峠

伊太祁曽神社

祭神は五十猛命・大屋津姫命・抓津姫(つまつひめ)命の三神で、一括して伊太祁曽三神ともよんでいます。五十猛命は『日本書紀』(神代上)の宝剣出現の段には、五十猛命は我が国に木種をもたらした神でその功によって有功之神と称されたといわれています。

伝えによると伊太祁曽三神はともに現在の日前国懸神宮の地に鎮座していたましたがその地を神宮に譲って三神ともに山東に遷座したといわれています。大宝2年(702)にそれぞれが場所を移動したが、伊太祁曽神社だけは山東にとどまったといわれています。1月15日には魔除け・厄除けの祭りである卯杖祭(うづえさい)が行われ、14日夜の粥占の神事ではその年の農作物の豊凶を占う祭りが行われています。

高積山(神南備山)・高積神社

高積山(標高237m)、通称和佐山の山頂に鎮座しています。祭神は都麻都比売命で相殿に大屋都比売命・五十猛命の2神を祀り合わせて三神を祀るので高三所明神(こうさんしょ)ともいわれています。

伝えでは神社は、元日前国懸神宮が鎮座する地にあったが、鎮座地を譲って山東を経て和佐高山に移ったといわれています。同様に遷座したという伝えをもつ社に伊太祁曽神社・大屋都姫神社があります。大屋都姫神社は大宝2年(702)に現在地の和歌山市宇田森に移ったことが記録から推測されています。

岩橋千塚古墳群

矢田峠東の岩橋山塊には6世紀代、天王塚古墳をはじめ豊富な埴輪群をもつ大日山35号古墳など丘陵頂部に主軸長100m弱の前方後円墳が築造されました。これらの大型古墳の被葬者を支えた有力家族たちも6世紀代、円墳を中心に4基前後の古墳を密に築造し全国でも最大級の古墳群を形成しました。その多くは岩橋式と呼ばれる横穴石室を構築しました。

岩橋千塚古墳群

岩橋千塚古墳群遠望

岩橋千塚大日山35号古墳造り出しの埴輪群

薬勝寺廃寺跡

矢田峠から南下する古道と貴志川方面からの古道が伊太祁曽神社周辺で合流し有田、日高、牟婁を目指します。亀の川流域平野部の北部丘陵裾に営まれた薬勝寺廃寺は佐野廃寺式軒丸瓦を出土する白鳳寺院跡で、「霊異記」にみえる薬王寺とみられています。